

武蔵野大学大学院
武蔵野大学
武蔵野大学高等学校
武蔵野大学中学校
千代田高等学校
千代田中学校
武蔵野大学附属幼稚園
武蔵野大学附属有明こども園
武蔵野大学附属慈光保育園

特集

小西 聖子新学長、西本 照真前学長対談
全学で「幸せ」を考えると、
武蔵野大学の成長を支える原動力



学校法人武蔵野大学報

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World



Musashino University E.F.
学校法人 **武蔵野大学**

表紙の風景

今春、武蔵野大学初の女性学長として就任した小西聖子教授と、9年間にわたり大学をけん引した西本照真前学長。二人は90年代末から人間関係学部(現:人間科学部)の教授として共に教壇に立ち、武蔵野大学の進化を見守り続けてきました。この日、武蔵野キャンパス6号館の雪頂講堂で学祖・高橋順次郎博士の像を前に、これまでの歩みを振り返りながら「これからの武蔵野大学」について語り合いました。

表紙撮影:木村輝

学校法人 **武蔵野大学**

Musashino Journal
vol.40

2025年3月31日

学校法人武蔵野大学 広報課

〒135-8181
東京都江東区有明三丁目3番3号
TEL:03-5530-7403
E-mail:kouhou@musashino-u.ac.jp
<https://www.musashino-u.ac.jp>

2 特集

小西 聖子新学長、西本 照真前学長対談
全学で「幸せ」を考えることが、
武蔵野大学の成長を
支える原動力

6 新生「千代田中学校・
高等学校」が誕生
～木村健太校長に聞く～
千代田中学校・高等学校
校長 木村 健太

9 学校法人武蔵野大学創立100周年
記念法要・式典を
築地本願寺にて開催

10 令和6年度創立100周年
記念アワードを開催

12 武蔵野大学 中学校・高等学校
課題を解決する
「実践力」と「英語力」を磨く

14 千代田中学校・高等学校
未来に向け新しい価値を創造する

16 武蔵野大学附属幼稚園
餅つきを楽しみ感謝の気持ちを深める

18 武蔵野大学附属有明こども園
一年の元気を願う豆まき会を開催

20 武蔵野大学附属慈光保育園
にじいろ通信

21 『学問の地平から』
教員が語る、研究の最前線

22 NEWS & TOPICS

24 建学の精神
大慈主義
— 学祖 高楠順次郎博士の洞察 —
武蔵野大学 経営学部 教養教育 特任講師
オニールA.J.

25 学校法人武蔵野大学後援会

28 表紙の風景

読者アンケートに
ご協力ください。
右のQRコードより
アクセスできます。



小西 聖子新学長、西本 照真前学長対談 全学で「幸せ」を考えることが、 武蔵野大学の成長を支える原動力

2025年4月、武蔵野大学初の女性学長として、
前学長の西本 照真教授からのバトンを受けるに際して、武蔵野大学

小西 聖子新学長が誕生しました。
の歩みを振り返り、これからを語る新旧学長対談を行いました。

**武蔵野大学にとって
初の女性学長が誕生**
— 武蔵野大学では初めての女性
学長が誕生しました。学長就任に対
する思いをお聞きます。

小西聖子新学長(以下、小西) 最初
にお話をいただいた時はとても驚き
ました。でも、武蔵野大学の始まり
は女子学院ですし、今でも女子学生
の方が多い大学です。男性ばかりが
学長になつてゐるのは偏つてゐると
は思つてゐました。だから、縁あつ
て選んでいただいたので、思い切つ
てやってみようと思ひ至りました。
西本照真前学長(以下、西本) 小西
学長の誕生は、女性の活躍を願つて
学校を創設した学祖・高楠順次郎先
生も、待ち望まれていたのではない

ませんでした。やはりご縁としかい
いようがないですね。
小西 そういふ方に来ていただける
ように思ひを伝えて、ご縁を強くす
る力が西本先生は長けておられると
思います。人徳ですね。

**「世界の幸せ」という同じ目標が
あるからこそ連帯意識**
— 武蔵野大学ならではの強みだ
と感じていることはありますか。

西本 根源的なことになるけれど、
困難な状況を打破するためのチャレ
ンジ精神を持ち、人格教育を目指し
た高楠先生のDNAが創立当時から
脈々と100年受け継がれている。
それが武蔵野大学の何よりの強みだ
と思います。
小西 「世界の幸せ」を発見し創出し
ていこうという大学のブランドス
テートメントを通じて、全学に共通
意識が生まれていることも、健全な
組織運営の実現に結び付くと考えて
います。学部間の意思疎通も活発に
なりますし。

西本 大学全体のミッションとし
て、「幸せブランド」をどのように具
現化していくかという課題があり、
教育のベースもそこにあります。目
指す方向が共通なので、学部間に溝
もなければ、有明と武蔵野でキャン

でしようか。ようやくここまで来た
かと感慨深いです。

小西 西本先生が学長のバトンを渡
された時にはどうだったのですか。

西本 武蔵野大学をブランド力のあ
る大学にしたいという思いは強くあ
りました。ちょうど「世界の幸せを
カタチにする。」というブランドス
テートメントを掲げた時期でもあつ
たので、この「幸せブランド」を学内
外に浸透させるにはどうしたらよい
だろうと考えてゐました。

小西 前任の寺崎修先生も大学の規
模拡大に意欲的な方でしたが、西本
先生も新たな学部や学科の創設に向
けて、エネルギーに動かされてい
ましたよね。

西本 私の任期中に新設した学部
は、他大では例を見ない学部かもし
れません。ですが今の時代や社会が

パスが異なつても、同じ方向を向い
て協力し合う素地が自然と出来上
がつてゐるのを感じます。

— 全体で同じ方向を向くには、教
職員の方々の協力が不可欠ですね。

西本 教職員の方は常に献身的とい
うか、武蔵野のためにという思いで、
総力を挙げて取り組んでくださる。
学部学科を新しく設置するにあつ
ても、100周年記念事業プロジェクト
にしてもそうです。寝食忘れて
取り組んでくれました。大学への愛
情を強く感じますし、頭が下がりが
ます。

小西 100周年記念事業プロジェ
クトの準備が始まった当時は今ほど
深く関わってゐなかつたのですが、
10個もプロジェクトを走らせると聞
いて、本当に全部できるのだろうか
と一抹の不安を感じました。走り終
えてみたら大成功で、どのプロジェ
クトでもしつかりと成果を上げられ
たことは誇らしいですね。

西本 学部を横断した共同の研究機
関として「しあわせ研究所」が存在し
ていて、その研究活動に100人以
上の教職員が自主的に参加してい
るのも、他の大学ではあまり見ない事
例だと思ひます。
小西 個人的には、キャンパスの存

小西 聖子新学長

1954年生まれ。1977年に東京大学教育学部教育心理学
科を卒業後、東京都心理判定員を経て、1988年に筑波
大学医学専門学群卒業、同年医師免許取得。1992年に筑
波大学大学院博士課程医学研究科修了、博士(医学)。
1999年に武蔵野女子大学(現・武蔵野大学)人間関係学
部の開設に合わせて人間関係学部人間関係学科教授に
就任。武蔵野大学人間科学部長、同大学院人間社会研
究科長、同大学心理臨床センター長、同大学副学長(グ
ローバル、DEI、学生支援、ハラスメント担当)を歴任。
2025年4月より女性として初めて同大学学長就任。主な研
究分野は被害者支援、外傷後ストレス障害(PTSD)の治
療に関する研究。精神科医として臨床に従事するほか、内
閣府の女性に対する暴力に関する専門調査会会長、同男
女共同参画会議議員も務める。

求めているものだと思つてゐます。学
長になる直前まで米国にいたこと
で、「これからの時代はデータサイエ
ンス、AI(人工知能)、アントレプ
レナーシップは欠かせない。日本の
大学が世界を相手に戦うには、これ
らの理解を深めなければ」という危
機感を覚えたのです。とはいえ、ア
ントレプレナーシップ学部の伊藤半
一学部長やデータサイエンス学部の
清木康学部長といった、核になる
方々との出会いがなければ実現でき



全学で同じ方向を見ている ことが武蔵野大学の強み 西本

小西 武蔵野大学には、明るくて素直な学生が多いという印象です。この点は、1999年に着任してから今に至るまで、あまり変わっていません。人間科学部ならではの傾向かもしれませんが、さまざまなことを自分の中に吸収して、大学時代の4年間で大きく成長する人が多いと感じています。

西本 大学側が改革を進めるのとリンクするように、学生たちも著しく成長していると感じます。ハピネスクリエイターとして輝きを放つ学生が目に見えて増えてきたように感じます。

小西 その傾向が顕著に現れてきたのはコロナ後ですね。私は100周年記念アワードの審査委員長を務めました。生徒や学生の発想の豊かさに驚かされました。

西本 屈託のない学生にも出会います。先日はウエルビーイング学部やアントレプレナーシップ学部の学生から声を掛けられ、「この学部をつくってくれてありがとう」とお礼を言われました。新しい学部でのびのびと過ごしている様子がうかがえました。

小西 数年先の未来も予測しづらい

時代ですから、自力で考える力がなくては社会で歩み続けるのは難しい。今は国家資格を取得できたからといって将来安泰とはなりません。今の需要がこれからもずっと続くか分からないからです。だからこそ自分で考える力はとても重要だと思えます。

西本 そうですね。時代の中を生き抜き、社会を変えていく底力を身に付けてほしいと願っています。

「ウエルビーイング」が これからの重要なキーワードに

——これからの武蔵野大学を見据えた展望をお聞かせください。

小西 ウエルビーイング社会の未来を考えつつ、それぞれの学生のスケジュールとサクセス実現を推進していく予定です。大学の課程を修了することはもちろん大事ですが、それだけではなく4年間の大学生活の中で自らが目標とする力を身に付

け、学生生活そのものを充実させるということですね。

西本 これからの武蔵野大学には、「ウエルビーイング」という言葉が重要なキーワードになると考えています。自分の価値観も含めて、ウエルビーイングを通じて「世界の幸せ」を考える起爆剤になってほしいという思いがあります。

小西 ウエルビーイングもまた、日本語に訳すと「幸せ」ですし、そういう意味では全学でウエルビーイングを考えていきたいですね。

西本 「幸せ」という言葉には、これまでの価値観に対する深い問いがあります。武蔵野大学のブランドステートメントを立ち上げたときも、幸せの定義、幸せの意味を改めて考えました。一つの考え方として、「幸せ」は苦しみを取り除くことだとも思うのです。

小西 武蔵野大学のブランドステートメントは素晴らしいものですが、その実現が容易ではないことも分

自分にできる小さなことを 積み重ねることが大事 小西

かっています。小さな歩みを一歩ずつ積み重ねていくしかありません。かつて阪神淡路大震災で支援活動をした時、大きなものに打ちのめされている人に対して、自分ができるとはとても小さいと思われ知らされ

ました。それでも、今の苦痛を少しでも減らすためにそれぞれにできることをする。それを繰り返すことこそ大事だし、それでいいのだと気付いたのです。学生たちにも、自分なりの幸せや自分にできることを考えることで気付きを得てほしいですね。

西本 これまで小西先生のお話を聞いていて、興味深いことに気付きました。私の場合は「武蔵野大学をこんな大学にしたい」というように、「武蔵野大学」を主語にビジョンを考えてきました。でも、小西先生の主語は「学生」なんです。学生にとって学びやすい場所、成長することのできる場所として大学を見ています。力点を置いているところが違うのですね。

小西 言われるまで気付いていませんでしたが、確かにそうです。私は基本的に人と関わる仕事をずっとしてきたせい、無意識に人を中心に発想しているのかもしれない。

西本 私の場合はやはり「つぶれないう大学」といった視点のブランドデ



ザインを考えてしまいます。

小西 それぞれの視点で、武蔵野大学をよくしていく気持ちを持ち続けたいですね。

——最後に、お互いへのメッセージをお願いします。

小西 学長職は未知の領域ですが、せっかくなので縁ですから、しっかりと務めたいと思っています。これから、西本先生をはじめとして周りの方にサポートをお願いすることが多くなると思いますが、安心して頼りたいと思っています。

西本 私の時にも、皆さん総力を挙げて支えてくださいましたので、これからは小西学長のサポートに心を尽くしてきたいと思います。学長職は仕事の量もさることながら、プレッシャーや目に見えないストレスも多くがちです。意識的に休憩時間を設けて、心と体を休めるようにしてください。応援しています。

小西 ありがとうございます。西本先生も9年間という長い間、おつかれさまでした。

西本 これからはウエルビーイング学部の教員として、学生たちと学びを深めていきたいですね。



新生「千代田中学校・高等学校」が誕生

木村健太校長に聞く

2025年4月より、千代田国際中学校／武蔵野大学附属千代田高等学院は
校名を「千代田中学校・高等学校」に変更しました。
その経緯とバージョンアップした教育内容に関して、木村健太校長にお話を伺いました。

●コースについて



千代田中学校・高等学校
校長 木村 健太

2009年より広尾学園中学校・高等学校で生徒の主体性を軸とした研究的な学びを展開。2023年より武蔵野大学附属千代田高等学院校長を務め、2024年からは千代田国際中学校校長にも就任。学外では、東京大学先端科学技術研究センター客員上級研究員、その他、内閣府総合科学技術・イノベーション会議や経済産業省、科学技術振興機構の委員等を歴任。中等教育における本質を多方面から追求している。

シンプルな校名で新体制に 生まれ変わった千代田

浄土真宗本願寺派の宗門校として、137年にわたる歴史を持つ千代田中学校・高等学校(以下、千代田)には、教育の不易と流行(いつまでも変わらないものと新しい変化)の両方をしなやかに受け入れていく土台が培われています。

「千代田が担うのは中等教育なので、大学に進学した後のことや、社会で求められるスキルなどを意識した学びを展開することも大切です。千代田でなら、そうした現実と同時に、未来をつくる夢も追いかけることができると感じました」

そう語る木村健太先生は、2023年に武蔵野大学附属千代田高等学院の校長に、翌2024年からは千代田国際中学校の校長に就任しています。さらに2025年から二つの学校は「千代田中学校・高等学校」に名称を変えて、新たな歴史を刻む一歩を踏み出しました。

学ぶようにあそび、あそぶように学ぶ

人類がいまだ成し得ていない課題の解決に挑戦し、新しい未来をつくりたい——。そんな思いに駆られて、木村先生は教育の道に足を踏み入れ

ました。未来をつくる過程は次世代を担う子どもたちと一緒に進むべきだと思いつたからです。

次世代を担う子どもたちと未来をつくるには、生徒たちが個々に未来を考える力を育み、継続的に学びを楽しむ方法を身に付けられるようサポートすることが重要です。

そこで、千代田では「学ぶようにあそび、あそぶように学ぶ」というコンセプトのもと、学びを「面白い」「楽しい」と感じるようなカリキュラムづくりを進めています。

教員が授業をする上で大切にしているのは、生徒たちの興味を刺激して「INTERESTING」を引き出すこと。興味の関口を広げるために、最初は面白おかしい「FUNNY」からのスタートでもよいとしています。

そこから興味が広がって、研究者やアントレプレナーが感じている「EXCITING」にまで発展できたら理想的ですね。

生徒たちが興味を持った学びをより深く掘り下げられるように、これまでのコースを再編し、新しく2つのコースを展開しています。

一つは人類にとっての新しい価値を生み出すことを目指す「研究コース」。もう一つは既に存在する価値や新しい価値を社会実装にまで発展

させることを目指す「開発コース」です。

生徒たちと共に研究に取り組むのは、国内外の大学・研究機関、病院、民間企業などで活躍する先駆者たちです。本質的な研究にのめり込み、第一線で活躍しながら自分の人生を本気で楽しんでいる大人が、生徒に知識を教えるためでなくむしろ生徒の感性や発想に学びながら一緒に考えるために関わってくれています。教員と生徒の関係も同じです。千代田は自分もみんなもしあわせになる未来をつくるために一緒に学び合う仲間が集う場所なのです。

ゼロから1を生む研究コースと1を10に発展させる開発コース

新たに誕生した2コースの概要は次の通りです。

研究コースでは新規性を大切に、ゼロから新たな価値を生み出す研究マインドを育みます。研究活動を深めるために本物に触れること、本質を捉えること、本気で取り組むことを重視しています。

「環境DNAラボ」「数論ラボ」「メディアラボ」など、続々と開講されるラボの中から、自分が学びたいと思ったラボに所属し、研究を深めていきます。中には研究者や医師とともに、まだ人類が解き明かしていな

いような不思議の解明に挑むような研究に取り組んでいる生徒もいます。

すでにいくつかのラボで研究活動が始まっていて、2024年度末には進捗報告会も行われました。さらに新たなラボの開発も予定されています(14、15ページ参照)。

開発コースでは、チームを組んで社会にある課題の解決に挑戦します。幸せな未来をつくるために何ができるのかを考え、自分の可能性を最大限に引き出す力を育み、今ある価値と新しい価値の社会実装を目指します。

開発コースで重要なのは、適材適所の仲間を集めてまとめるチームづくりです。メンバーそれぞれの強みを生かし、弱みはカバーする体制を整えるには、自分を知り、相手を理解することが欠かせません。

そのスキルを磨く手法の一つがグラフィックレコーディング(以下、グラレコ)です。グラレコは絵や図などを用いて、議論の内容などを簡潔に表現する手法です。発せられた言葉の要点や結論が可視化されるため、他者の主張を要約しながら言語化するスキルが磨かれます。

最終的には自分の主張や夢を可視化するビジョンマップをつくることで、自己理解を深めます。どちらのコースでも、中学と高校



学校法人武蔵野大学創立100周年 記念法要・式典を築地本願寺にて開催



結衆による読経



スクールソングの演奏



スティール・パン・バンドの演奏

2024年12月11日、築地本願寺にて創立100周年記念法要および記念式典を開催しました。

当日の列席者は383名。浄土真宗本願寺派の大谷光淳ご門主をはじめ、学祖高楠先生・2代学院長鷹谷先生のご親族、龍谷総合学園関係者、海外協定校関係者、同窓会役員、教職員らが参集しました。

記念法要では、築地本願寺の中尾史峰宗務長を導師として、三奉請、表白、正信偈と続き、読経のうちに参列者が焼香しました。

法要に続いて行われた記念式典では、長野了法理事長が、100年前に学祖高楠先生による女子教育への願いから始まった本法人の歩みを振り返り、今後の10年・20年を展望するために策定した「学校法人武蔵野



式辞を述べる長野 了法理事長



学校関係者による焼香



生徒・学生代表による、よろこびの言葉

大学ブランドデザイン」に触れ、一歩一歩着実に歩みを進めていく決意を式辞で述べられました。

また、あべ俊子文部科学大臣からのご祝辞(代読)をいただき、武蔵野大学中学校・高等学校の生徒代表および武蔵野大学の学生代表による「よろこびの言葉」の後、列席者全員で恩徳讃を唱和し、厳かな雰囲気の中で閉式しました。

式典の後は、場所をランドニッコー東京台場に移して記念祝賀会を開催し、各界からの来賓が出席する中、創立100周年記念に制作されたスクールソング「君の花咲かせて」の演奏などが披露され、最後に会場の出席者全員での学院歌斉唱により閉会しました。



をまたいだ6年間のロードマップを整えています。カリキュラムは高校からの3年間でも対応できる仕組みを構築しています。

まず深く掘り下げてから、興味を外へと広げていく

こうした研究活動は、生徒たちの潜在能力を大きく引き出します。一般的な教育スタイルは苦手分野

を克服するために、各教科を広く浅く学んでいく手法がとられがちです。千代田では、まず好きなこと、興味のあることを最優先して、とことん深く掘り下げます。やがて関連する事項に目が向くようになり、他の教科へと興味が広がり、それが転移可能な力であることに気付くのです。

例えば、再生医療に興味を持つ生徒が幹細胞の研究を始めたとしても、最新の研究内容を知りたいと思えば、英語で書かれた論文を読むために、自然と英語を学び始めるでしょう。さらに研究を進めるうちに、数学や化学などの知識が必要になれば、主体的に調べ始めるに違いありません。他分野の知識を身に付けることが自分のやりたいことに直結するとすれば、それは勉強ではなく、新たな楽しみになるからです。

このように、自分のやりたいことを軸として興味が派生していくと、分野を飛び越えて学びが広がります。「やらなければならぬ」と修行のように取り組む場合と、「これをやりたい」と楽しんで取り組む場合とは、どちらがよい結果を生むかは明らかです。

「生徒が興味を広げ始めたときこそ、教員の腕の見せどころです。この生徒は何の学びを求めているのか、個々に見定めて最適な場所を一

緒に考える。生徒一人ひとりに個別最適化した学びのストーリーをつくるのが、千代田の教員に求められるスキルだといえます」(木村校長)

一人の生徒に対して一人の教員だけで対応するのは限界があるため、複数人でチームを組んでサポートしていく必要があります。千代田ではそうした体制づくりの実現を目指しています。

楽しんで学ぶことを覚えた生徒の成長力に期待

学ぶ楽しさを身に付けた生徒は、貪欲に自分にとって必要な知識を吸収していきます。

例えば、高校2年生のある生徒は数学に苦手意識があり、中間テストではほとんど点を取れませんでした。しかし、数学を研究する数論ラボに参加したことで数学に対する意識が変わりました。公式を覚えて当てはめて解くのではなく、自由な発想で取り組みやすいことに気付いたのです。学ぶ楽しさを知った生徒は、3カ月後の期末テストで大きく得点を伸ばし、校外模試ではトップの成績を取るまでに飛躍しました。

好きなことにまっすぐ向き合えば、学ぶことを素直に楽しめる。そんな生徒が多いことが、千代田の強みかもしれません。

「千代田が目指しているのは、みんなが幸せになる未来です。他者の幸せを考えることは難しく、自分の考え方を基準にして推測したり、常識にとらわれて決め付けたりしている可能性もあります。だからこそ、他人の感性を理解しようとする姿勢を持つことが大切だと考えています」(木村校長)

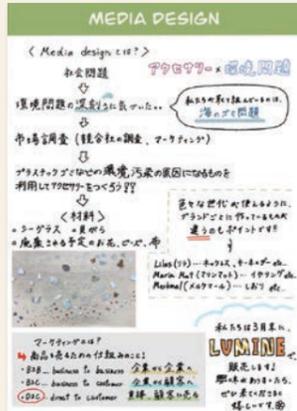
画期的な体制にバージョンアップした千代田は、教育機関として新しい風をもたらそうとしています。



最優秀賞

中学部門

千代田国際中学校「Media Designゼミ」
海洋ゴミを用いた
アクセサリ制作・販売の企画



審査委員長を務めた小西 聖子新学長



活動概要を1分間でアピール



来場者に活動を説明するポスターセッション



会場の審査員からは講評と、各団体の活動を激励するコメントが送られた



表彰式では受賞団体に目録が手渡された



令和6年度創立100周年記念アワードを開催

2024年11月16日、武蔵野大学有明キャンパス3号館にて

「令和6年度学校法人武蔵野大学創立100周年記念アワード」(以下、創立100周年記念アワード)を開催しました。
当日は参加53団体から最終選考に選ばれた20団体が、各々の活動を発表しました。

来場者とオンライン参加者が
一体となってアワードを応援

学校法人武蔵野大学創立100周年記念事業プロジェクトにおける学生企画型イベントとして、2023年(令和5年度)に引き続き開催された「創立100周年記念アワード」。武蔵野大学のブランドストーリーメントである「世界の幸せをカタチにする。」を実践するため、自分たちには何ができるかを考え、活動している団体を表彰しました。

当日は最終選考に残った20団体が審査会場に集い、活動に込めた思いと成果を発表しました。

各団体の代表者による1分間スピーチでは活動紹介のスライドを投影し、短い持ち時間を最大限に使ってアピールが繰り返されました。出場団体に直接質問ができるポスターセッションの時間になると、用意されたパネル資料をじっくり見ようと立ち止まる人、質問を投げかける人、熱のこもった説明を続ける出場団体のメンバーが入り乱れて、会場内は活気に包まれました。

アワード会場を中継するライブ配信では、ポスターセッション中に動画を流して各団体の活動内容を紹介。会場に足を運べなかった人も審査員から講評と、各団体の活動を激励するコメントが送られた

査に参加しやすい工夫が施されました。仮想空間に設けられた「XR (Cross Reality) 会場」でも活動資料を閲覧できるほか、有明キャンパスにいる発表者と交流を図れるようになっている。オンライン経由の参加者もアワードの雰囲気を楽しんでいました。

世界を幸せにするために
何ができるかを考え、
伝えていく

投票はオンラインで行われ、活動の成果発表を見た全員が審査員となつて、受賞にふさわしいと思える団体に票を投じました。

その結果、3部門(中学部門、高校部門、大学部門)各1組の最優秀賞と、3部門から合計8組の優秀賞が決定。印象深い団体にはオーディエンス賞、園児部門には特別賞が贈られました(左ページ参照)。

審査員からは講評として「学び自体が幸せにつながっていることが感じられた」「これからも世界の幸せづくりに貢献してほしい」などの声が寄せられ、受賞者は笑顔で喜びをかみしめていました。

最後に審査委員長を務めた小西聖子新学長からの総評と閉会のあいさつで、アワードの幕が閉じました。

高校部門

千代田高等学院「自然科学部」
コーヒー抽出かすを利用した
雑草除去や害虫対策



大学部門

武蔵野大学「つなぎ・つながる・みんなの広場」
有明キャンパス4号館前
シンボルプロムナード公園の
環境整備やイベント企画



優秀賞

中学部門

武蔵野大学中学校
・MUL-SPLASH
千代田国際中学校
・農業×食ゼミ

高校部門

武蔵野大学高等学校
・MUL-CONNECT
千代田高等学院
・医療研究

大学部門

・FUTATABI
・任意団体Sora&Ryo
・MURP
・アントレプレナーシップ学科
高松宏弥ゼミ
FS 発展 2B[西東京子ども]

オーティエス賞

千代田国際中学校
・ジュラシック・チキン

園児部門

武蔵野大学附属
有明こども園
(VTR参加)



武蔵野大学 中学校・高等学校

課題を解決する「実践力」と「英語力」を磨く
 武蔵野大学高等学校のPBLインターナショナルコースでは、社会の課題に対して解決策を考える力やそれを形にする力を育てる授業が行われている。

視聴覚室に登場した 5つの英語生活空間

1月23日、武蔵野大学中学校・高等学校で「TGG校内体験ツアープロジェクト」が催されました。

武蔵野大学高等学校のPBLインターナショナルコースは、グローバルな人材に欠かせない英語教育にも力を入れており、2年生は2024年12月に東京都立川市にある体験型英語学習施設「TOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG)」の半日ツアーに参加しました。「TGG校内体験ツアープロジェクト」はそこでの体験に基づき、自分たちなりに校内に再現した中高の合同イベントです。

校舎3階にある2つの視聴覚室には、飛行機の搭乗ゲート&機内、ホテルのフロント、病院&院内薬局、カフェ、ショッピングモール内のアパレルショップを模した5つのコーナーが登場しました。
 5つのコーナーでは、医者は白衣を羽織る、店員はカジュアルな



PBLインターナショナルコース長の桑原千鶴先生

服装に着替えるなどシチュエーションに合ったスタッフに扮した高校生が待っていて、中学生がお客さんとして英語でのコミュニケーションにチャレンジします。

視聴覚室手前のロビーに集合した中学3年生にはバスポートが配られ、高校のPBLインターナショナルコースの2年生が「テン、ナイン……(中略)……ワン、ゼロ!」とカウンタダウンをして、頭と気持ち英語空間に切り替えます。視聴覚室内では、日本語は禁止です。

課されたタスクを
 コミュニケーションでクリア
 各コーナーでは、会話をより実践

的なものにするため、中学生にタスクが課されます。たとえば飛行機の機内なら「席が寒い」、カフェなら「飲み物に虫が入っていた」、アパレルショップなら「ファスナーが壊れていた」など。まずは問題を伝え、それをどういう方法で解決するかを英語でやりとりするのです。

中学生が答えに詰まると、高校生は別の表現で質問をしたり、回答の選択肢を挙げたりします。相手の目を見て笑顔で話す、ジェスチャーを交えるなど、円滑にコミュニケーションを図るための工夫も見られました。

PBLインターナショナルコースの生徒たちは事前にネイティブスピーカーの教員にもサポートを依頼しました。

想定される会話を事前チェックしてもらおうと、実際に街で話されている表現を習得するなど、自分たちの英語力を磨く機会にもなったようです。

5つのコーナーを回った中学生からは、「緊張してしまっって、知って

いる単語も出てこなかった」「普段はなかなか英語を話す機会がないので、とても楽しかった」「高校生の発音が上手でびっくりした」という声がかれました。各コーナーの滞在時間は10分程でしたが、それぞれに刺激を受けた様子が見られました。

体験して終わりではなく
 自分流に実践してみる

今回のイベントを開催した趣旨を、PBLインターナショナルコース長桑原千鶴先生はこう説明します。

「PBLの授業では、社会の課題を解決に導く手法を学び、実際に形にしていく中で、生徒のポテンシャルを引き出していきます。チャンスの種類や数が多いほど、多くのものを引き出せますから、TGGを経験したで終わりにせず、自分たちのアイデアで再現する場を設けました。まずは身近な中学生に体験してもらい、校外での活動にもつながればと考えています」



飛行場の手荷物検査と飛行機の機内を模したコーナー



ホテルの受付コーナーと課題



病院と院内薬局のコーナー



カフェコーナー。小道具も凝っている



ショッピングモール(洋服屋)のコーナー

TGG半日ツアーに参加したときの様子



一方、日本での英語学習者には「実践的に英語を使う機会が少ない」という課題もあります。PBLインターナショナルコースの生徒の多くは1年間の留学をしますが、TGGのツアーへの参加と今回のプロジェクト実施には、留学しない生徒にも異文化に触れる機会を与え、英語への関心をより高めてもらいたいという意図もありました。

今回のプロジェクトは後期のPBL授業のプログラムとして実施されたもので、桑原先生は「グループで取り組むところにも意義がある」と話します。「各メンバーの強みを生かせば、自分一人ではできないことも実現できる。そう分かれると、プロジェクトにより積極的に取り組めるようになり、自信にもつながります」(桑原先生)

PBL授業で次に取り組むプロジェクトは、海外から受け入れてくれる留学生約20名との交流会を企画し、2・3月に2回実施するというものです。意見を出し合っって内容を詰めていく段階では、今回のTGG校内体験ツアープロジェクトの経験が生かされることでしょう。

コース改編から5年目を迎え、PBLインターナショナルコースの生徒は着実に「解決に向け協働する力」を身に付けています。



千代田 中学校・高等学校

高校1・2年生が 研究活動の進捗を報告

2025年4月、千代田中学校・高等学校は「未来をつくる学校」にバージョンアップし、高等学校は「研究」「開発」「IB」の3コース制となりました（IBコースは2年生以降、6ページ参照）。研究コースの生徒は1年生から「ラボ」に所属し、ゼミ形式で研究活動を進めます。ラボには、教員だけでなく外部の多彩な専門家も講師として参加します。

この新体制に先駆け、2024年度に高校1・2年生の希望者29人が研究活動をスタートしています。2



宝石サンゴ周辺生態系チーム

構造生物学ラボ

数論ラボ

クソニンジンチーム

メディアラボ

河川環境チーム

幹細胞ラボ

メント・モリチーム

未来に向け新しい価値を創造する

この春、新たなコース制を採用し、校名を改めた千代田中学校・高等学校。高校では一足早く研究活動が始まり、生徒たちがさまざまな研究にチャレンジしている。

025年1月23日にその進捗報告会が開かれました。報告会は多目的教室と図書室を兼ねたアカデミックリソースセンター（ARC）で行われ、6ラボの8チームがスライドを使って研究の内容と進捗状況を発表しました（以下、発表順）。

■医療/命ラボ 〈メント・モリチーム〉

クソニンジンとは、治療が困難とされていたマラリアを、早期に治療すれば治る病気にした薬草です。チベット医から薬草について学び、現在は論文を読みながら理解を深めています。また、武蔵野大学薬学部との高大連携によって、株式会社ツムラの工場を見学しました。いつかは治療が困難とされている病気を治す薬を作り出したいと考えています。

■医療/命ラボ 〈メント・モリチーム〉

メント・モリとは「自分がいつか死ぬことを忘れるな」という意味のラテン語で、現代では死を意識す

ることで今を大切に生きるという解釈で用いられます。自分たちの活動や伝えたいことにピッタリなので、チーム名にしたそうです。今後は、一人ひとりがウェルビーイングを実感できる社会の実現に向け、研究を進めていきます。

■数論ラボ

まだ見ぬ整数の性質を見つけたいことが目標の純粋数学の研究ラボ。数字そのものの発展に寄与することを目的に活動しています。完全数6に対して、約数の和が自身の2倍と12（6の2倍）の和となる整数を「完全数6の宇宙完全数」といいます。宇宙完全数の分布に関する予想を立て、現在証明を試みています。

■幹細胞ラボ

傷ついた筋肉の修復には、「骨格筋幹細胞」が活躍します。その自己複製メカニズムを解明できれば、筋ジストロフィーの治療に役立てられるのではと考えています。同様の論文を見つけたときは気落ちしたそう

識して調査を進めていく予定です。

■環境DNAラボ〈宝石サンゴ 周辺生態系チーム〉

新種の生物を発見したいと思い、生態系の99%以上が未解明の深海に生息する宝石サンゴ周辺の生態系に着目。海水を採取して「環境DNA」を調べる方法を考えたが、その方法ではうまくいかなかったという先行研究を発見しました。その研究者に実験方法を確認し、アプローチ方法を再検討する予定です。

■メディアラボ

映像制作に関わるスキルを身につけると同時に、動画を制作して在校生と受験生に千代田の魅力伝えたいと考え、プロのプロデューサーや脚本家からのアドバイスに基づき、台本を作成しています。思い付いたキーワードを書き出して時系列にまとめました。テーマは「本気になれる場所がある」で、物語仕立てで魅力を伝える動画を目指しています。

大事なのは研究の手順を学ぶ 研究マインドを培うこと

発表後には質疑応答の時間が設けられ、寄せられた質問についてチームで話し合い、その時点で分かることや自分たちの考えを丁寧に答えて



休憩時間は自由な質疑
応答の場となった

いました。また、ARCに隣接するカフェテリアに各チームの発表内容を大型ポスターで掲示し、休憩時間に自由に質問できるようにするなど、今回の報告会のスタイルは学会の研究発表会そのものでした。

千代田高等学校が研究活動で目指すのは、必ずしも目に見える成果を上げることではない、と環境DNAラボ担当の名取慶先生は話します。

「研究で一番興奮する瞬間は、まだ誰も知らないことを世界ではじめて自分だけが知ったときです。そのためには、世界に存在する知を集めていく必要があります。研究においては最も大変な時期です。しかし、今日の発表の様子を見ると、そのようなアカデミックな時間でもワクワク楽しんで過ごせていることがわかり、我々教員も楽しかったです」

バージョンアップした千代田中学校・高等学校は「楽しいを大切にしながらこれからの地球の未来をつくる」場所。生徒たちの未来への最初の一步はここから始まります。

ですが、今はその論文を読み進め、自分たちの研究の新規性を見いだそうとしています。実験技術を習得するために遺伝子のSNP解析も行っています。

■構造生物学ラボ

お酒に強い弱いかは、あるタンパク質（有害物質の分解酵素）の構造的な違いによって決まります。南極に生息する魚が凍らないのは、特殊なタンパク質「不凍タンパク質」を持っているためです。不凍タンパク質の機能を分子や原子のレベルで理解するために解析手法を学びながら、多数の論文を読み進めています。

■環境DNAラボ 〈河川環境チーム〉

微生物には水質浄化能力があり、下水処理場の汚水浄化にも活用されています。論文を読んで水環境の最前線の情報を収集し、汚水浄化に捕食・寄生性の微生物が重要だと知ったそうです。そうした微生物が自然界のどこに存在するのか新規性を意

令和7年度以降開設予定のラボ

- 幹細胞ラボ：ES細胞/iPS細胞/再生医療
- 構造生物学ラボ：タンパク質立体構造解析/機能解析
- 環境DNAラボ：バイオインフォマティクス
- システム工学ラボ：アプリケーション/人工知能
- 数論ラボ：完全数/スーパー完全数/暗号理論
- 現象数理ラボ：数値シミュレーション/渋滞学
- 宇宙物理ラボ：素粒子/宇宙線
- 有機化学ラボ：天然有機物/創薬
- 医療/命ラボ：公衆衛生学/終末期医療
- メディアラボ：映像制作/アニメーション
- サイエンスコミュニケーションラボ：科学リテラシー
- コンサルティングラボ：経営/戦略



餅つきを楽しみ感謝の気持ちを深める

武蔵野大学附属幼稚園の餅つきは、臼や杵(きね)の準備から鏡餅をつくってお供えするまで、園児が多岐のことを学び、経験する機会となっている。



杵は重いけどがんばるぞ



のもち米の匂いをかいだりします。今回は園

年末恒例の餅つきと鏡餅づくり

武蔵野大学附属幼稚園の12月の恒例行事といえば「餅つき」。中庭にはかまどと4段重ねの蒸し器が設置され、湯気が立ち昇っています。「この湯気でもち米を軟らかくするんだよ」という説明に園児たちは興味津々。「いい匂い」という声も聞こえてきます。

もち米が蒸し上がると、園児が園内放送で「1回目は鏡餅用の餅をつきます。ホールに見に来てください」



かまどに興味津々!

餅つきは全部で5回行われ、ボランティアのお父さんたちからは「来年は倍の人数が必要ですね」という声も。それでも、「友達と一緒に遊んでいる姿など、家とは違った子どもの様子を見ることができて良かったです」と笑顔で頑張ってくれました。

つき上がった餅は、熱いうちに先生たちが一口大にちぎって丸め、お手製の砂糖じょうゆを絡めます。園児たちは手を合わせて、食前の言葉「深くご恩を喜び、ありがたくいただきます」を唱えてから、モグモグ。「もちもち!」「たれが甘くておいしい」「家で食べるおもちよりも軟らかい」と大好評でした。

日本の伝統文化と感謝の気持ちを学ぶ

餅つきを冬のイベントとして行う幼稚園も多い中、武蔵野大学附属幼稚園は、鏡餅のお供えなど年越しの準備という伝統文化を伝える機会としています。

そのため、餅つきの数日前から杵を水に漬け、先端にやすりをかける、前日にもち米をといで「一晚おく

といった準備作業を見たり、蒸す前と蒸した後のもち米の匂いをかいだりします。今回は園

とアナウンス。それまで園庭や保育室で遊んでいた園児全員が、ホールに集まりました。今回は、園児のお父さん6人が餅つきボランティアとして参加してくれました。

お湯を注いで温めておいた臼にもち米を移し、まずは杵でギュツ、ギュツと押す「こつぶし」を行います。これは、ついたときに米が飛び散らないようにまとめる作業で、かなりの力が必要です。

つづれ具合をチェックする主事の景谷裕香先生からOKが出ると、「つき」に進みます。餅つきは初めてというお父さんが多く、最初は力の加減やタイミングがつかめず戸惑い気味のような様子でしたが、少しずつ動きがスムーズに。園児たちにもお父さんたちの意気込みが伝わったのか、「よいしょ! よいしょ! よいしょ!」の大声援が響き渡り、ホールは熱気に包まれました。

餅がつき上がると、景谷先生が仏様にお供えする鏡餅をつくりまします。二つに分けた塊を手際よく内側へと折り込みながら、丸い形に整えてい



少しずつよくかんで、みんなでおいしくいただきました

きます。鏡餅は翌日、しっかりと固まつてからホール内のお仏壇にお供えしました。

ベッタンベッタン 年長組が餅つきに挑戦

次に年長・年中・年少から1組ずつ集まり、年長組が代表して、自分たちが食べる餅をつきます。お父さんがこつぶしを終えたら年長組にバトンタッチ。園児が2人ずつペアになって、相手の杵とぶつからないように注意してベッタン、ベッタン餅をつきます。その表情からは、「去年まではお兄さん、お姉さんがついてくれたけど、今年は私たちが年中・年少さんにお餅をついてあげるんだ」という誇らしげな様子が見えましました。

お父さんたちが仕上げのつきをしているところに、石上和敬園長が腕まくりをして参加。「力を入れるのは杵を上げるときだけでいいんです。下ろすときは重力を利用すると楽ですよ」と餅つきのベッタンならではのアドバイスしてくれました。

児が米とぎのお手伝いもしました。

自分たちが普段目にするものや食べているものには、多くの人が関わっていて、出来るまでに長い時間がかかっています。身の回りのことは「当たり前」のように、当たり前ではない」と知ることで、園児たちの周囲に対する感謝の気持ちは自然に深まっていくようです。

餅つきの後には、クタクタになるまで頑張ってくれたボランティアのお父さんたちに感謝の気持ちを伝えようと、年長組の園児たちがテーブルと椅子を並べて「おもちゃストラン」を開きました。餅を食べながら、園児と一緒に楽しめたしゃべりまで楽しめたうれしいサプライズに、お父さんたちの疲れも吹き飛んだようです。

武蔵野大学附属幼稚園で3年間を過ごし、この春巣立っていく年長組の園児たち。幼稚園で育んだ5つのこころの芽——「感謝」「健やかなこころからだ」「ゆたかな感性」「あそびへの意欲」「思いやりの気持ち」——をこれからもどんどん伸ばしていくことでしょう。



餅つきボランティアの園児のお父さんたち



中庭に設置されたかまどと蒸し器



お供えされた鏡餅



臼を温めるお湯を運んでお手伝い



武蔵野大学附属
有明こども園

一年の元気を願う豆まき会を開催

日本の伝統的行事に親しむために、節分の「豆まき会」を実施。年長クラスが鬼役を担当し、鬼のお面も投げる豆も手づくりで用意するなど、子どもたちの工夫がふんだんに盛り込まれた。

子どもたち主導で準備を進める



1月31日、武蔵野大学附属有明こども園では冬の行事の一つとして、節分を楽しむ「豆まき会」を実施しました。

豆まき会は園児たち主導のイベントで、豆をまく役も鬼の役も園児たちが役割を分担しています。鬼を担当するのは、一番年齢の高い年長クラス。鬼を装うためのお面も、自分



「えほんのもり」で行われた乳児クラスの豆まきと鬼役の年長クラスの園児たち

たちで手づくりしました。大きくて強そうな鬼を描いた子もいれば、こぶる子もいて、バラエティーに富んだ鬼の姿に個性が感じられました。

鬼退治をする園児たちも自分たちのお面を装備。お面はクラスごとにおそろいで、紙工作やお絵かきで装飾しています。

さらに、豆を入れる升代わりのバッグや、鬼にぶつける豆も自分たちで手づくりしました。豆は、投げても安全なように、紙を丸めてつくったやわらかい紙玉です。

先生たちは豆まき会場の飾り付けを担当。入り口には魔よけのために、イワシの頭をトゲのあるヒイラギの枝に刺した「ヒイラギイワシ」の飾りを設置するなど、古くからの日本の風習に従った演出で節分を盛り上げました。

心の中にいる困った鬼を退治



豆まき会は0〜2歳児までの乳児



ホールでの豆まきの様子。鬼役に元気良く豆をぶつけます



お手製の豆入れバッグや容器



クラスが1回と、年少・年中クラスを1組ずつ合体したチームが3回の計4回行われました。

乳児クラスの会場は「えほんのもり」です。年少・年中クラスの合体チームは人数も多いので、しっかりと走り回れるように、豆まき会場はホールに準備されました。

担任の先生の誘導で豆を入れたバッグを抱えた園児たちが会場に集まると、司会役の先生が節分や豆まきに関する物語を語り始めます。園



鬼が入ってくると豆まきがスタート！

児たちが理解しやすいように、こんな言葉で呼びかけていました。「節分はこれからの一年間を元気づけてくれる日です。でも心の中には『いじわる鬼』『なきむし鬼』『おこりんぼ鬼』『やだやだ鬼』などの鬼がいて、節分になるとみんなを困らせようとやってきます。鬼は豆が嫌いなので、豆まきをして鬼を追い出してしましましょう」

先生たちの進行で、鬼との対決を心待ちにする園児たち。その頃、鬼役の年長組は見つからないように、こっそりと会場の外でスタンバイしています。

鬼登場の合図は、童謡の「まめまき」の歌。ピアノの伴奏に合わせて園児たちが歌い終わると、一斉に鬼役が会場になだれ込んできます。さっそく「鬼ごっこ」が始まったホールでは、あちらこちらで「鬼は外！」のかけ声が響きます。勇ましく鬼に立ち向かう子、握った豆をなかなか投げられない子、先生の背に隠れな



渡邊 光一園長

がらそつと豆を投げる子、鬼の姿におびえてしまう子と、豆まき隊の様子は十人十色です。年長クラスの園児たちは鬼の役割を果たしながらも、必要以上に怖がらせることはなく、年下へのいたわりや優しさをにじませていました。

季節の行事を楽しみ心に残る思い出に

やがて鬼たちが会場から出ていくのと入れ替わりに、ゆつくりと福の神様が登場。年の数だけ食べると幸せになれるという福の豆をみんなにプレゼントしてくれたところで、各回の豆まき会は終了になりました。

「季節ごとの行事は子どもたちの心に残ると思うので、先生たちも役割を分担しながら準備に力を入れてきています。子どもたちのやりたいことを先生たちが上手に引き出してきてくれるので、いい経験を重ねていると思います」と渡邊光一園長は話します。「子どもたちのかわいらしきを感じながら、一日一日成長していく様を見守れ、とても充実した一年でした。春には新しく入園してくる子どもたちも増えますし、2025年度も園全体でいい雰囲気を作り上げたいですね」と、優しく目尻を下げて語りました。

会の最後には福の神様が登場



ホール入り口に飾られたヒイラギイワシ



データサイエンス学
データサイエンス学部
データサイエンス学科
石橋 直樹 教授



現在、データサイエンスが日本中で注目され、データサイエンスを研究する学部や学科が次々に新設されています。武蔵野大学では、国内の私立大学で初めて、日本で3番目にデータサイエンス学部を設立しています。データサイエンスとはどのような学問なのか、どのようにして社会と関わっているのかを、データサイエンス学部の石橋教授に伺いました。



ウェルビーイング学
ウェルビーイング学部
ウェルビーイング学科
前野 隆司 教授



2024年4月、日本初のウェルビーイング学部が武蔵野大学に誕生しました。経済格差や貧困、国際紛争、環境問題など、世界のあらゆる場所で対立や課題が表面化している今、人や世界の幸せを追求するウェルビーイングは、新たなパラダイムを提示する力を持つ考え方として注目されています。学部長を務める前野教授に、これまでのウェルビーイング研究の成果、学部での教育内容、今後の展望などについて伺いました。



批判的応用言語学・批判的異文化
コミュニケーション学
グローバル学部
グローバルコミュニケーション学科
オーリ リチャ 准教授



10代の頃から先端技術とシンプルな生活が共存する日本への憧れを抱いていたというリチャ准教授。留学のために来日して20年以上たつ現在も日本への「愛」は変わりません。現在、日本語を母語としない外国人と日本人が力を合わせて活気がある地域社会を創っていくために、「多文化共生・異文化コミュニケーション」の視点からオープンな日本社会を実現する、多彩な教育研究活動を積極的に展開しています。

『学問の地平から』教員が語る、研究の最前線

本学の教員は、教育者であると同時に、第一線で活躍する研究者でもあります。本企画では、多彩な教員陣へのインタビューをもとに、最新の研究と各分野の魅力を紹介します。



公衆衛生学
教育学部 幼児教育学科
峰 友紗 准教授



乳幼児期の子どもの健康は、学童期、成人期にいたるまで生涯の健康の基盤になることが知られています。乳幼児の健康づくりには、家族はもちろん、保育所や幼稚園において子どもたちと関わる保育者の役割もとても重要です。保健師としての現場経験を持ち、母子保健を専門とする峰准教授は、乳幼児期の健康に対して公衆衛生の視点から、保育・幼児教育のフィールドにアプローチし、親子の幸せにつながる教育と研究に力を注いでいます。



都市環境工学
工学部 サステナビリティ学科
三坂 育正 教授



ここ数年、猛暑が続いている日本。熱中症の発症者が増加する中で、暑さによって私たちの行動にさまざまな制約が生じています。暑さによる制約が、人々の多様な活動機会を奪い、社会経済活動に影響を及ぼす可能性も指摘されています。そうした課題を解決するため、都市環境工学を専門とする三坂教授は、熱中症リスクが低く、快適に過ごせる空間をまちなにつくり、それを地域振興にも結びつける「暑さに強いまちづくり」を目指した研究に力を注いでいます。



臨床薬学
薬学部 薬学科
三原 潔 教授



近年、新薬の開発やその効果の研究にも、さまざまな医療データを活用するデータサイエンスが必要不可欠となっています。おかげで次々に新しい治療薬の開発なども進んでいますが、一方でそれら新薬はすべての患者に対して同じ効果があるわけではありません。ビッグデータを活用した薬剤疫学を研究する三原教授に、研究の意義と学生たちが大学で学んだ成果を将来生かすための教育についてお話を伺いました。



武蔵野大学附属慈光保育園
にじいろ通信
子ども達の「今」を大切に輝く未来

閉園のご挨拶
毎号ににじいろ通信をご覧ください誠にありがとうございました。さて、本園は令和7年3月末日をもちまして閉園することになりました。これまで本園に賜りましたご厚情とお力添えにこの場をかりて心より御礼を申し上げます。8年間という短い期間ではございましたが、その間、みなさまとたくさんの楽しい思い出をつくることができました。今後とも、本園の思い出をいつまでも大切にしていただけたら嬉しく存じます。今までありがとうございました。

武蔵野大学附属慈光保育園 園長 石上 和敬



狂言〈素袍落〉シテ・太郎冠者 山本 東次郎氏

第20回能楽資料センター主催
狂言鑑賞会を開催しました

本学創立100周年となる2024年。能楽資料センター主催の狂言鑑賞会も第20回を迎える節目の年となりました。これを記念して、12月18日に武蔵野キャンパスで狂言鑑賞会を開催しました。公演には大蔵流狂言方の山本東次郎氏(人間国宝。文化功労者)と和泉流狂言方の野村万作氏(人間国宝。文化勲章受章者)らにご出演いただき、A・Bの2公演を開催しました。

A公演は、野村萬齋氏(和泉流狂言方。万作氏の長男)の「水汲」と東次郎氏の「素袍落」。B公演は山本則孝氏(大蔵流狂言方。東次郎氏の甥)の「武悪」と万作氏の「舟渡」。会場の雪頂講堂は観客で埋め尽くされ、人間国宝二人が出演するという豪華絢爛な公演を熱心に鑑賞していただきました。

(文責：三浦裕子能楽資料センター長)



建築デザイン学科の学生が鎌倉市の「シェアビレッジ鎌倉西御門」でデザイン制作を開始しました

工学部建築デザイン学科の太田 裕通講師と学生29名(4年生3名、3年生3名、2年生12名、1年生11名)のプロジェクト「あわいdeカタチ」は、神奈川県鎌倉市の「シェアビレッジ鎌倉西御門」のコミュニティスペースのデザインを開始しました。太田講師が担当する『あわいdeカタチプロジェクト』は「社会のあわいで建築する」をモットーに、学外でのデザイン実践に取り組んでいます。



会計ガバナンス学科 鈴木ゼミが「サイエンスアゴラ2024」に参加しました

経営学部会計ガバナンス学科の鈴木 純一教授が担当するゼミが、10月26日から27日に開催された「サイエンスアゴラ2024」に参加。鈴木ゼミでは7月から10月まで、臨海地域のエリア開発を担当する東京臨海ホールディングスとPBL(課題解決型授業)を行いました。PBLでは、青海南地区の連携を強化するため、「青海南おさんぽマップ」の作成、Instagramを使った情報発信を行い、「サイエンスアゴラ2024」では実演・案内をしました。



創立100周年記念シンポジウム「弘兼憲史先生と学祖・高楠順次郎について語る」を開催しました

11月4日に武蔵野大学創立100周年記念シンポジウム「弘兼憲史先生と学祖・高楠順次郎について語る～起業としての学問～」(仏教文化研究所共催)を開催しました。本イベントには、創立100周年プロジェクトの一つとして学祖・高楠順次郎の伝記漫画『高楠順次郎 仏教学者、世界を駆ける』を制作いただいた、人気漫画『島耕作』シリーズでおなじみの漫画家・弘兼 憲史氏が登壇しました。



法学部政治学科の学生が地元江東区の衆院選業務に参加しました

法学部政治学科の学生が、10月27日に執行された衆議院議員選挙で、江東区の選挙事務に積極的に参加しました。成り手不足で高齢者が多い「投票立会人」を3名の1年生が務めるとともに、区選挙管理委員会と連携して実施している授業「選挙特殊研究」の履修生18名が開票所の業務などに従事しました。さらに、同履修生がデザインを提案した「投票済証」が採用され、江東区内54か所の全投票所で配布されました。



マイナビ主催の企画アイデアコンテスト「課題解決プロジェクト」で学生アイデアが佳作に選ばれました

7月25日、企画アイデアコンテスト「課題解決プロジェクト」で、経営学科2年生の下林幸夏さん、日本語コミュニケーション学科2年生の納田和香羽さん、政治学科2年生の二俣亮太さんのチーム「水色ストライプの出会い」のアイデアが佳作として評価されました。3名は「オムロンのコア技術を用いて、社会的課題の解決に向けて取り組むべきこと」について、オーバーツーリズムによって生じる観光地の地元住民や環境に関わる課題を取り上げました。



「副専攻(AI活用エキスパートコース)」が文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)」に認定されました

「副専攻(AI活用エキスパートコース)」が数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)に認定されました。本制度は、大学などの教育機関が提供する正規課程の教育プログラムで、一定の要件を満たした優れた内容を持つものを文部科学省が認定する制度。AI副専攻の入門科目(「データサイエンス基礎」と「人工知能基礎」)で同制度の「リテラシーレベル」の認定を受け、修了者は累計で約12,000名に達しています。



経営学科の学生チームが「第5回産学連携ビジネスコンペティション」でオーディエンス賞を受賞しました

経営学科平野 貴士ゼミの学生チームが、AKKODiSコンサルティング株式会社と株式会社志結舎が主催する「第5回産学連携ビジネスコンペティション」でオーディエンス賞を受賞しました。本大会には全国の9大学から27チーム、総勢150名以上が参加し、今回が5回目の開催となります。本学からは3年生14名が3チームに分かれて出場し、その中で「cos.チーム」がオーディエンス賞に選ばれました。



幼児教育学科生が「むさしのエコレポート」で親子向け地域交流イベント「にじいろワークショップ」を開催しました

12月7日、幼児教育学科生が武蔵野市のエコセンターである「むさしのエコレポート」で「にじいろワークショップ」を開催。これは「幼児教育プロジェクト」を履修する学生たちが、地域の子どものために貢献できる企画を自ら考えて実践するワークショップです。この日は、「子ども自身が考える防災をテーマにしたもの」「世界について学べるスタンプラリークイズ」などを実施しました。



データサイエンス学部生5名が第3回「Research & Development Challenge」で優秀賞を受賞しました

12月4日に開催されたインテージホールディングスR&Dセンター主催イベント「第3回 R & D Challenge」でデータサイエンス学部生5名が優秀賞を受賞しました。「R&D Challenge」は株式会社インテージグループR&Dセンターが主催するイベントで、データサイエンス学部生の研究活動を助成することを目的に開催されています。



一般社団法人VENTURE FOR JAPANとアントレプレナーシップ教育に関する協定を締結しました

武蔵野大学(アントレプレナーシップ学部)は「起業家志望の新卒・第二新卒が地方企業の経営者の直下で事業責任者として就職する」サービスを行うVENTURE FOR JAPANと連携協定を締結しました。経営者の直下でビジネスをイチから立ち上げる経験を通じてアントレプレナーシップを養い、自ら事業を起こし行動できる人材を育成します。また、本提携を記念してトークイベントを開催しました。



緑バースキャンパス(メタバースキャンパス)上に通信教育部棟(ロビー、専攻別ホームルーム)が誕生しました

緑バースキャンパス(メタバースキャンパス)上に通信教育部棟を開設しました。1階のロビーでは、「登校」する通信教育部の学生が掲示板やガイダンス動画などの情報を確認できるほか、学生同士の会話を楽しむことができます。またディスカッションスペースやアドバイザーとの相談ブースも完備され、日常的使用が可能です。2階から6階には各専攻別のホームルームを備え、仲間を感じながら学修を進めることができます。



小平市および小平市薬剤師会と医薬品適正使用の推進及び医療費適正化に関する連携協定を締結しました

武蔵野大学(薬学部)は小平市および小平市薬剤師会と、医薬品適正使用の推進及び医療費適正化に関する連携協定を締結しました。締結に伴い、小平市役所で調印式を実施しました。本協定では、自治体、保険薬局、病院薬剤師および大学が相互に連携協働することによる多角的視点から、継続可能な高い医療(薬物療法)を幅広く提供するために、課題解決にむけて取り組みます。



The Founding Spirit

建学の精神

大慈主義

— 学祖 高楠順次郎博士の洞察 —

武蔵野大学経営学部教養教育特任講師

オニール A. J.

題字
廣瀬 舟雲
教育学部
廣瀬 裕之 教授



Dr. Junjiro Takakusu 学祖 高楠 順次郎 博士

The Principle of Great Compassion

Insights from the Founder, Dr. Takakusu Junjiro

Specially Appointed Lecturer
Faculty of Business Administration
Faculty of Liberal Arts Education

By A.J. O'Neill

Given the unstable nature of the world's peace, we must encourage a return to Musashino University's founding spirit of "great compassion," inspired by the words of our founder, Dr. Takakusu Junjiro.

In *From Śākyamuni Buddha to Shinran Shōnin*, Dr. Takakusu outlined the distinctive qualities of the Buddha exemplified in Shinran Shōnin's teachings. Among these is great compassion, founded on non-violence, avoiding harm, abstinence from killing and extending limitless concern for all. Great compassion surpasses even maternal love in embracing all equally.

For Dr. Takakusu, the Buddha's teachings, like great compassion, are living principles fully realised in the Buddha, for whom the "perfection of wisdom" equals the "perfection of character."

For Shinran Shōnin, a paradox arises: as long as we strive to perfect our character through our limited self-power, we inevitably give rise to compassion on a merely ordinary level. By relinquishing reliance on self-power and entrusting in the Buddha's other-power, we accept great compassion into our hearts, expressing gratitude through the nembutsu: Namo Amida Butsu.

Thereafter, enveloped by great compassion, we can embody it in daily life, rooted not in individualism but universal faith.

英語要旨 Abstract

世界の平和が不安定化しつつある状況のなかで、学祖 高楠順次郎先生のご教示に導かれた「大慈悲」という建学の精神に立ち戻る必要があります。

学祖は著書『釈迦如来より親鸞聖人へ』のなかで、ブツダの比類なき八つの特徴について説明されています。その中の「大慈悲」という特徴は、非暴力や他者を傷つけないこと、殺生をしないこと、そしてすべての衆生に対して限りなく配慮することなどに基づいています。「大慈悲」は母性愛に似ていますが、すべての衆生を分け隔てなく抱きとるという点において母性愛をもしのぐものです。

学祖によれば「大慈悲」などのブツダの教えは、単なる教義というよりも、ブツダという人格において完全に達成された生きた原理ともいうべきものです。すなわち「智慧の完成」は「人格の完成」に等しいものであったのです。

親鸞聖人の教えについて学祖は次のように述べられています。私たちが限られた「自力」によって人格を磨こうとする間は、日常的なレベルでの慈悲の実現にとどまらざるを得ないでしょう。「自力」に頼ることをはなれ、ブツダの大いなる「他力」に身を任せることで、「大慈悲」が心のなかにしっかりと届き、その感謝の思いが念仏としてあらわれるのです。

このようにして、私たちは「大慈悲」に包まれながら、日常生活のなかでも「大慈悲」を具現化することができるのです。

学校法人武蔵野大学後援会

令和7年度新入生へのお祝いメッセージ

ご入学・ご入園おめでとうございます。

この度はご入学・ご入園おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。新たなスタートとなるお子さまに保護者の皆さまのお喜びひとしおのことと思います。新しい環境で不安や心配なこと、また困難に直面することもあると思いますが、今後のお子さまの人生に影響を与えるような、大切な出会いもあるでしょう。

武蔵野大学後援会は、保護者の皆さまからの後援会費のもとに、学生、生徒、園児をバックアップして参ります。保護者の皆さまには、後援会活動へのお力添えの程よろしくお願い申し上げます。



学校法人武蔵野大学後援会 会長
工藤 英生

新入生の皆さまへ入学おめでとうございます。また新入生の皆さまを今まで深い愛情を持って支えてこられたご家族の方々や関係者の皆様におかれましては心よりお祝い申し上げます。

武蔵野大学後援会では、保護者の皆さまの学びと経験が皆さまの未来を一層輝かしく照らし出すことを念願しお祝いの言葉とさせていただきます。

新入生の皆さまは、新たな仲間と共に切磋琢磨しながら知識と経験を積む冒険のスタート地点に立っています。未知の世界への第一歩は不安を伴うものですが、明確な目標を持ち、勇気と自信を持って歩



学校法人武蔵野大学後援会 副会長
山本 真由

このたびは、ご入学・ご入園、誠にありがとうございます。新入生の皆さまと保護者の皆さまの新たな門出を、心よりお祝い申し上げます。後援会は、すべての保護者の皆さまによつて構成され、お子さまたちが安心して学び、成長できる環境づくりを支援しています。学院の経常経費の一部を助成し、奨学金や部活動、学習環境の整備など、多方面で支えています。



学校法人武蔵野大学後援会 副会長
佐野 幸雄

この度は、ご入学・ご入園おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。昨年末から2月にかけてインフルエンザが大流行するなど、苦難を乗り越えてのご入学であったかと拝察いたします。

基礎として、恐れずしかし気をつけて（作家の沢木耕太郎さんの言葉です）、在学期間中に多くの有意義な経験をされることを願っております。

年を重ねるにつれて思うことですが、経験によつて得られる感性は、同じ経験によるものでもそれぞれの時（年代）で違い、その時だからこそ感受できるものがあります。建学の精神である四弘誓願を



学校法人武蔵野大学後援会 副会長
田中 清進

令和6年度後援会主催の教養講座について

第92回教養講座は、12月22日(日)に開催しました。講演を撮影し、オンデマンド配信を行いました。

12月22日、武蔵野キャンパス雪頂講堂にて、東京大学名誉教授で紫式部学会会長の藤原克己先生を迎え、第92回教養講座「夫婦愛の文学史(抄)―万葉から源氏へ―」を開催しました。万葉集から源氏物語に至る夫婦愛の表現の変遷について、文学的背景と人間関係の視点からひもときました。

藤原先生はまず、万葉集における愛の表現の自由さに触れ、その率直で純粹な感情が古代の人々の生活や価値観を映し出していることを説明しました。その一方で、源氏物語が描く愛の形は、より複雑な心理や社会的要素を含むものへと変化していくとし、特に光源氏と紫の上の関係に挙げ、愛が個人間の感情だけでなく、社会的な役割や道徳観に影響される様子を解説しました。

中でも紫の上が死を迎える場面は、愛と死のテーマが交錯する象徴的なエピソードとして語られました。そこには、美しさとはかなさを同時に抱えた夫婦愛の本質が込められており、人間の深い感情が表現されていると説明されました。



第92回教養講座「夫婦愛の文学史(抄)―万葉から源氏へ―」

また、源氏物語は恋愛物語にとどまらず、当時の社会構造や人間の心の複雑さを描き出した作品であり、現代人にも通じる普遍性を持つと解説。「古典文学を読むことで、時代を超えた人間の感情や生き方に触れることができる」と述べられました。

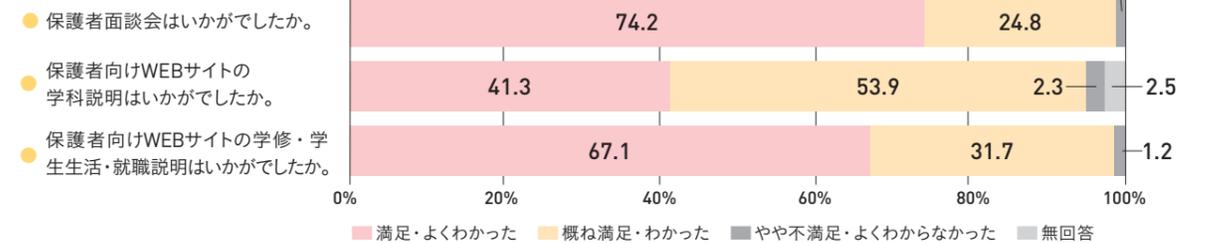
聴講者は藤原先生の深い洞察と情豊かな語り口に引き込まれ、古典文学への理解を深めるひとときを過ごしました。講演は、愛の形の変化と普遍性を示す文学の魅力を存分に伝え、多くの感慨を残して幕を閉じました。

● 令和6年度大学説明会と保護者面談会 ●

武蔵野大学における修学・学生生活・進路指導などの基本的な考え方や指導方針にご理解をいただくため、令和6年度は対面による大学説明会を開催しました。保護者向けWEBサイトに学科ごとの動画および関連資料を掲載して、情報発信を強化するとともに、教員との面談を希望される保護者の皆さまには、武蔵野キャンパス対象学科は10月12日、有明キャンパス対象学科は11月16日・17日に、Zoomによる個別オンライン面談もしくは対面による面談を実施し、多くの保護者の方にご参加いただきました。



令和6年度大学説明会・保護者面談会全体の評価



保護者からのご意見など

子どもの状況を把握し、細やかな対応をしていただいていると感じました。

学生が望む方向に大学がサポートしていただき良い印象を持ちました。

遠方に住んでいるのでZoomでの面談は助かります。学生のことを細かく把握されていて驚きました。

大学生生活や就活等は親はあまり関係ない感覚でしたが、情報を得る事は大切だなと思いました。

学生の日常活動内容を保護者専用ページなどで閲覧できる仕組みが欲しい。

後援会奨学金

武蔵野大学後援会では、保護者などの学費支弁者の死去・病気・離職および罹災などにより、家計の事情が急変し、学修が著しく困難となった学生に対して奨学金給付を行っています。

授与式では小西副学長、伊藤学生部長より奨学生へ激励の言葉があり、奨学生代表へ給付決定通知書が授与されました。奨学生代表が感謝の言葉と共に、将来の展望について抱負を述べました。



後援会ホームページ

<https://www.musashino-u.ac.jp/kouenkai/>

随時更新しておりますのでご確認ください。

